

のっぽの手

認定 NPO 法人 ふくしま NPO ネットワークセンター通信 vol.54 2014. 10月号

広島県大雨災害に寄せて

広島県において発生した豪雨土砂災害により、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

また、犠牲になられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

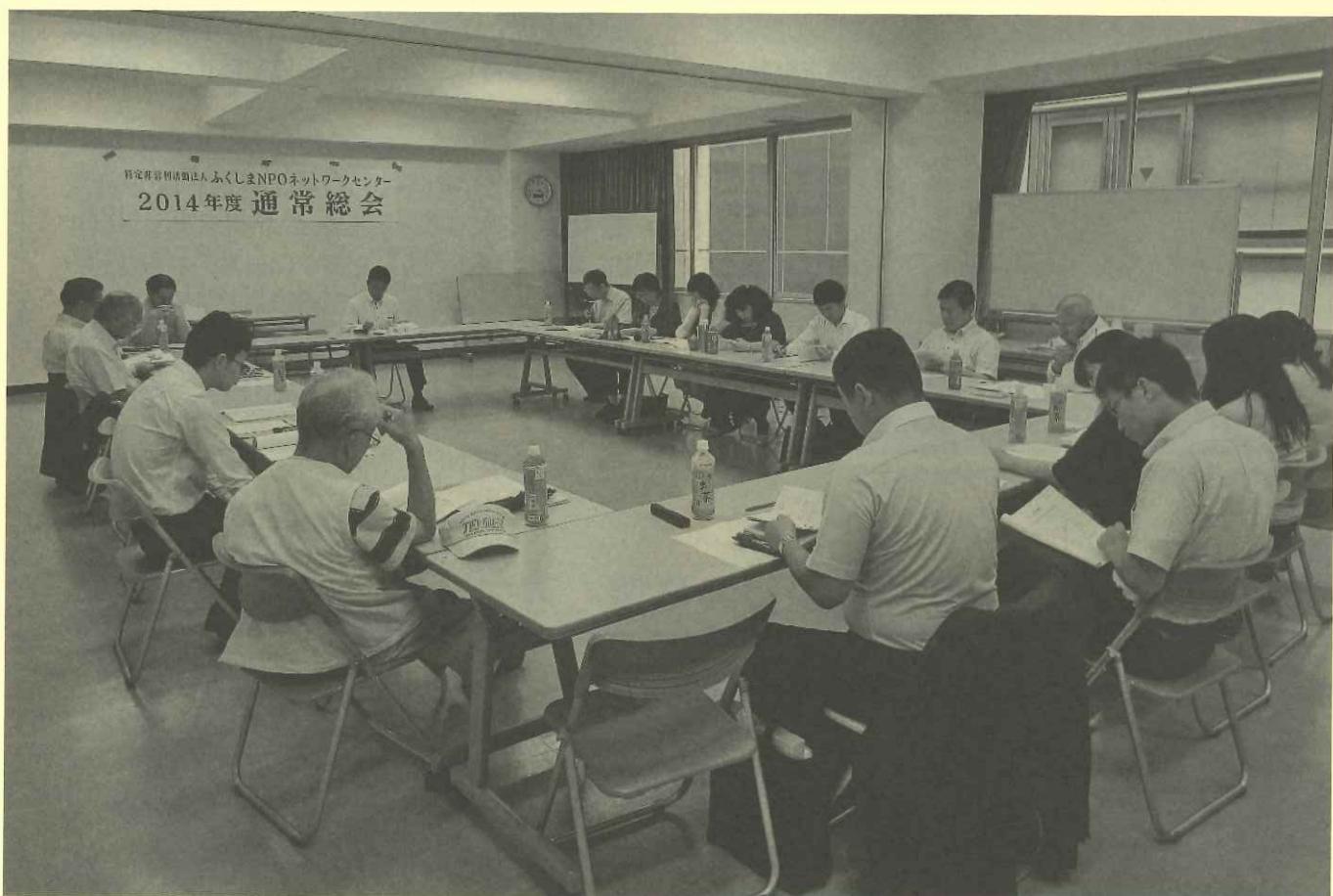
※「平成26年広島県大雨災害義援金」受付先

日本赤十字社 ▶ http://www.jrc.or.jp/contribute/help/14/Vcms4_00004713.html

広島県 ▶ <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/60/giennkinn.html>

◆Contents.....

- 2014年度(第15回)通常総会を終えて
- のっぽアカデミー
「チームビルディング講座」開催
- 中間支援センター情報交換会開催報告
- まちの駅 駅長会議について
- 住友商事インターンシップ事業
- 寄付ギフト事業



2014年度通常総会開催しました

7月19日（土）、ふくしま NPO ネットワークセンターの 2014 年度（第 15 回）通常総会を福島市市民活動サポートセンターにおいて開催いたしました。ご出席いただきました会員の皆様、貴重なご意見を多数いただき誠にありがとうございました。来年迎える 15 周年に向けて更に精進したいと思います。

また、総会の前には“のっぽアカデミー”として『体感☆チームビルディング講座』が開催され、参加された方々から大変好評をいただきました。

今号では、理事長からの総会を終えての報告と総会と併せて開催されたファシリテーション講座の様子などを詳しくお伝えいたします。

年次総会を終えて

～2014年度通常総会開催報告～

当センターの年次総会も終了し、15年目の活動期に入りました。総会でも提案しましたが、来春15周年を記念した事業も考えたいと思っています。センター活動の15年の足跡を振り返りながら、これからセンターの活動を方向づけるような、意義深い記念事業としたいと思いますので、会員及び理事のみなさんからの積極的な提案を期待しております。

今年度の事業は、ほとんど昨年度の事業を引き継いでおりますが、事業の内容や構成ウエイトは少し変化してきております。たとえば、認定NPOになったことを契機に取り組み始めた活動助成の事業は、想定外の寄附金が集まつたことから、市民活動とまちづくりのための2つの基金を立ち上げ、外部の審査員を含む審査制度を整備し、



▲菅野 真理事を議長に進められた総会のようす



▲ネットワークセンターの取り組みについて、活発な意見の交換がなされました

大きな助成事業として踏み出しました。県から委託を受けている基盤事業も、外枠には大きな変化はないのですが、市民活動の環境変化に柔軟に対応するより開かれたきめこまかな対応へとシフトしてきました。福島市市民活動サポートセンターも、指定管理者としての取り組みに舵を切り始めました。ふくふく・チョコラボ事業も新たな助成金を獲得し、復興ニーズに対応すべく奮闘しております。

以上のように、何処のセクションでも、外枠は変わらないようにみえても中身は刻々周囲の変化を受け止めて取り組んでいるのが実態かと思います。本年度は、そうした日々の日常的な取り組みの中で、中間支援組織の現場の力を發揮し、実績を積み重ねていきたいものと考えています。そしてまた、働きがいのある職場にしたいものです。

ふくしま NPO ネットワークセンター理事長

星野 珙二

新任理事 自己紹介

今年度新たに理事となりました新関永（にいぜきひさし）です。「福島ヘリテージマネジャー」とは、歴史的に価値ある建築物を保全活用することで、美しい景観と心豊かな福島の暮らしを実現することを目的として、昨年度創設されたものです。

昨今、赤煉瓦の東京駅がリニューアルされ話題になっていますが、福島市内には同じ辰野金吾氏が設計した旧日本銀行福島支店と旧福島県農工銀行がありました。また、今回の大震災では、竹屋旅館、福島教会、旧ノートルダム修道院と、多くの歴史的建築物はじめ、古民家、土蔵が甚大な被害を受けて姿を消してしまいましたが、これらは

地域の宝、誇り、そしてやすらぎでもありました。

今、大震災、そして原発事故からの復興に全世界が注目しています。福島の一挙手一投足が世界から見られていると言っても過言ではありません。

私は、大震災を乗り越えた古い建築物を大切にすることで、心豊かな福島の再生の一助となるよう努めています。ふくしま NPO ネットワークセンターの取組みについてもこのような視点で参加し、「元気なふくしま」のまちづくりに携わっていければと考えております。どうぞよろしくお願いします。

福島ヘリテージマネジャー

新関 永

のっぽ・アカデミー「体感☆チームビルディング講座」体験記

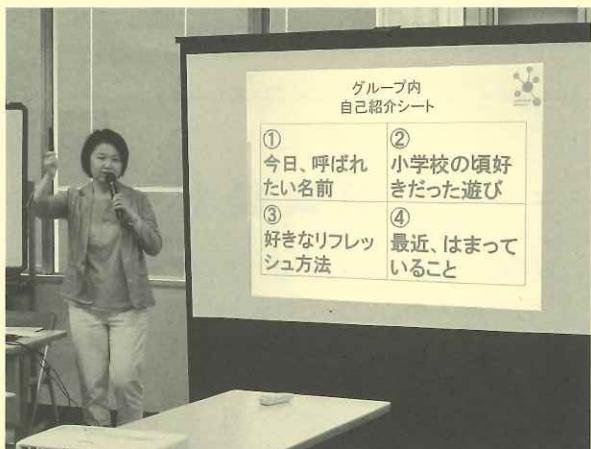
第11回のっぽ・アカデミー（第68回NPO研究会）は、ふくしまNPOネットワークセンターの2014年度通常総会記念講座との同時開催となった。地域社会デザイン・ラボ代表の遠藤智栄さんを講師に招き、「体感☆チームビルディング講座—組織はチームワークで決まる！」と題し、7月19日、総会に先立ち、福島市市民活動サポートセンターで開かれた。当センターの理事、会員、職員を中心に30名近くが参加し、6班に分かれて和気あいあい（侃々諤々？）とワークショップに取り組んだ。

チームとは何か？ 戦う集団なり、というのがその日一番人気の定義。制限時間3分で都道府県名を網羅するという班対抗戦はなかなかの盛り上がり。リーダーらしき存在が現れ、指示をしたけど、それが「聞こえなかった」り、「意味がわからなかった」り、というなぜか既視感にとらわ

れる班もあれば、北からと南からとを分担しようという提案が「私、南はわからない！」という一言で雲散霧消した班もあり、結局、優勝した班もオレがオレがの個人間競争の結果だったという、およそどの班もチームとしては機能しなかったというオチ。大丈夫かネットワークセンター。

関係性づくりから目標の共有、そしてプロセスの変化へ—組織活性化・組織変革の3ステップという講師のお話に深く頷きながら、日頃の関係づくりと信頼感の醸成がなければ、人の集団はたんなる野合に終わるということを実感した私であった。

ふくしまNPOネットワークセンター常務理事
牧田 実



▲遠藤智栄さんを講師にワークショップを開催



▲テーブルごとのチームに分かれ、協力して課題に取り組むようす



▲年代、性別がバラバラになるように組み合わされたチームでチームワーク作りを体験

「第1回地域活動団体中間支援センター情報交換会」開催報告

協働は背中合わせの思いやり

7月4日（金）杉妻会館（福島市）において、福島県内にある市民活動の中間支援センター、中間支援団体委託市町および特定非営利活動法人の設立認証等事務の権限移譲市町の担当職員の皆さんなど43名の参加で情報交換会がおこなわれました。

I部では「協働のまちづくり」をテーマに講座を開催し、講師に藤沢市市民活動推進連絡会の理事・事務局長の手塚明美さんを迎えるました。「行政と市民活動団体の協働は人が背中合わせに横歩きをしているのと同じで、お互いを気遣わなければ先へ進むことができない」と、実際にフロアから呼び寄せた2名が背中合わせに歩くようすを観察しながら、協働のあり方についてわかりやすく解説してくださいました。



各地域の中間支援センターと行政（担当者）がともに考えた貴重な時間

また、II・III部では各中間支援センターの事業内容や協働事業の事例紹介など情報交換をおこない、今後の連携強化について共有をはかりました。

次回は中間支援センターの課題とその解決法を探るためのワークショップを開催予定で現在準備を進めています。

ふくしま地域活動団体サポートセンター所長
齋藤 美佐

■こちらの報告および各中間支援センターについては「ふくしま地域活動団体サポートセンター」のホームページやフェイスブックに掲載されています。ぜひ、ご覧ください。
<http://f-saposen.jp/>

まちの駅 駅長会議について

まちの駅は、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぎ、人と人をつなぐ場です。休憩機能、案内機能、交流機能、連携機能を有していれば、設置主体、設置場所に制限がありませんので、設置しやすくなっています。

いま全国で1,650を超えるまちの駅がネットワークしています。福島県は会津地域の51駅、福島市13駅、その他地域3駅となっています。今後の福島県の復興を支えるコミュニティシステムとして、まちの駅の位置づけとネットワークの構築への期待は益々大きくなると予想されます。

「まちの駅ネットワークふくしま」の本年度事業は、仲間の拡大と定例事業の2か月ごとの駅

長会議、春、秋の社会貢献交流事業、まちの駅全国大会への参加、そして大きなまちづくり事業や観光イベントとの連携も検討しています。

現在、まちの駅の新駅候補でいくつかの事業所に案内中です。まちの駅の目指す姿は、日常生活、観光者の楽しい交流スポットです。この交流スポットが最大の効果を上げるために、駅相互の密接な協力・連携が大事になり、そのかじ取りを担うのが駅長会議です。まちの駅のシステムを生かし、新しい福島の観光やまちづくりの隆盛を目指していきます。

まちの駅 ふくしま情報ステーション所長
丹治 武志

住友商事インターーンシップ事業



6月28日(土)、仙台市市民活動サポートセンターにおいて「住友商事 東日本再生 ユース・チャレンジプログラム インターーン奨励プログラム 2014 インターーン入校式」が行われた。これは、被災地の若者的人材育成を目的にNPOで若者が9か月間(7月~翌年3月)のインターーン活動を行うもので、福島県では今年2年目となる。今年度は福島県、宮城県の他に岩手県も加わり、3県合同の入校式となった。

2014年度の福島県では男性2名、女性5名の7名のインターーン(福島大学4名、福島学院大学2名、桜の聖母短期大学1名)が活動をスタートした。

ふくしまNPOネットワークセンターは現地協力団体の立場でインターーンの受け入れも行っている。今年度は、大山紘平君、清水沙紀さん、2名のインターーンが県内インターーンをまとめる役割で活動を始めた。

他に県内の受入れ団体は、いいざかサポーターズクラブ、シャローム、ビーンズふくしま(福島市)、コーヒータイム(二本松市)となっている。

NPOで活動する人々の年齢層は様々だ。この中で活動する彼らは刺激もあり、気付きは大きいと思う。何かを見聞きして、それを素直に受けとめることを大切にし、学んだ時、若い彼らのパワーがどう開花するのか、私もメンターとして楽しむだ。

今後、彼らの活動はふくしまNPOネットワークセンターのホームページを通して報告していく予定だ。「応援をよろしくお願いします。」

ふくしまNPOネットワークセンター
理事 内山 愛美

寄付ギフト事業

今年7月から「寄付ギフト」事業をスタートさせた。「寄付ギフト」とは冠婚葬祭などの際、お返しをするお品代の一部を県内の市民活動団体、またはNPO法人などに寄付をしたい方々の気持ちを仲介するもので、「お礼」にかわる新しい「お返し」のカタチだ。お礼の品を「寄付ギフト」にかえてご縁と感謝の気持ちを社会に活かす目的でふくしまNPOネットワークセンターが事務局となり、地域の企業の協力のもとにスタートすることになった。

「寄付ギフト」は高知県で「天国からの寄付ギフト」として実施しており、同様のカタチで「寄付ギフト」を行うのは福島県が全国で2例目となる。

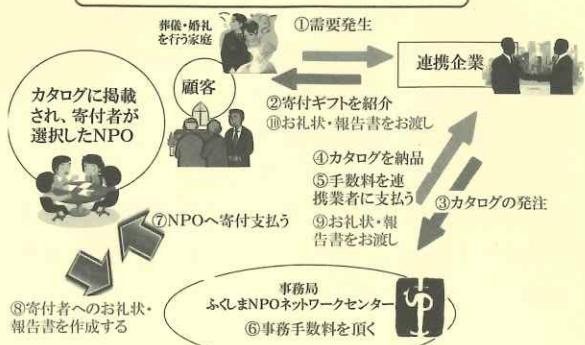
きっかけは、「地域の活動団体の資金のサポートと活動の広報の一貫になればよい」「寄付者が増加している現状にともない、寄付をしたいと考えている人の参考になれば…」と考えてのことだった。

第1期カタログ掲載団体はビーンズふくしま、いいざかサポーターズクラブ、まごころサービス福島センター、チャイルドラインふくしま、ふくしまNPOネットワークセンター(福島市)、キャリア・デザイナーズ(郡山市)の6団体だ。なお、カタログ掲載団体は2016年度より、1年ごとに募集し、選定を行って行く予定である。

現在、多くの協力企業を募集し、様々な寄付ギフトの展開を模索している。「寄付ギフト」を福島に根づかせ、地域をそこに住む人たちの力でよりよくしていきたいと期待は大きい。

ふくしまNPOネットワークセンター
理事 内山 愛美

寄付ギフト事業とは……?



HPリニューアル！

7月中旬にネットワークセンターのホームページをリニューアルしました。新しく見やすくなつたホームページはいかがでしょうか？各事業所の進捗状況や自主事業としておこなっている助成金の情報等を発信していきますので、ご期待ください。

また、ふくしま地域活動団体サポートセンターのホームページも7月1日よりリニューアルいたしました。ふくしま地域活動団体サポートセンターが主催し、県内各地で開催している講座の案内・申込受付や助成金の公募情報を随時更新しております。ぜひご覧ください。

※ふくしまNPOネットワークセンターのfacebookも開設いたしましたので、併せてよろしくお願ひいたします。



福島県より受託、運営している施設

◆ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043
福島市中町8-2 福島県自治会館7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL [http://www.f-npo.jp/sapesen/](http://www.f-npo.jp/saposen/)
E-mail sapesen@f-npo.jp

福島市の指定管理者制度で運営している施設

◆福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041
福島市大町4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

福島市より受託、運営している施設

◆まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053
福島市三河南町1-20 コラッセふくしま1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

自主事業及び助成事業として運営している施設

◆チョコラボ・ふくふくプロジェクト事務局

〒960-8031
福島市栄町10-3 キッチンガーデンビル3F
TEL 024-521-9311 FAX 024-521-9311
E-mail fpic@fukufuku-project.net

講座案内

共感力がキメテ☆
～基礎から学ぶファシリテーション講座～

講師：遠藤智栄氏 地域社会デザイン・ラボ代表
プランナー・NPOアドバイザー

Part1 ファシリテーション・グラフィック編

- 伊達市 9月26日(金)13:30~16:30
伊達ふれあいセンター内 会議室
- 須賀川市 9月29日(月)13:30~16:30
須賀川市市民温泉 大会議室

Part2 チーム・ビルディング編

- 郡山市 10月14日(火)14:30~17:30
郡山労働福祉会館 中ホール
- 福島市 10月15日(水)13:30~16:30
福島テルサ 大会議室

参加無料、定員は各会場16名です。
お申し込み、お問い合わせ先は下記の通りです。

ふくしま地域活動団体サポートセンター

- TEL : 024-521-7333
- FAX : 024-523-2741
- E-Mail : sapesen@f-npo.jp

編集後記

- 会員・理事の皆様の協力を得て無事に通常総会を終えることができました。そこでちょっと一息、おいしい秋の味覚や紅葉・温泉を楽しみたいです。(根本)
- 日本の夏は温暖化でどうなってしまうのだろうかと、ちょっと心配になるような今年の夏でした。秋は行楽＆グルメの季節！台風さん、来ないでね。(大山)
- 今年の夏は、福島の桃で乗り切りました。しっかりした食感と甘味に、すっかりやみつきです。これからも梨やぶどう等、福島の秋が今から楽しみです。(古屋)

編集・発行

認定特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル8F
TEL : 024-528-1211
FAX : 024-528-1218
E-mail : center@f-npo.jp
URL : <http://www.f-npo.jp/>